

No.112

2020(令和2)年
11月1日
発行

浄土真宗本願寺派
和歌山教区日高組
責任者
永原智行



ウイルスで 死ぬのではない
生まれてきたから 死ぬのだ
いまのから 驚くことか...

生きて 死ぬ いのちを
生きている

本願寺メッセージポスター



常例布教が9月から再開、4日間出願しました 本願寺御影堂にて晨朝布教の永原組長

ヒダカくん・ひかりちゃんのお話

『御文章』のお話

その15

永原智行

雪中章

そもそも、当年よりことのほか、加州・能登・越中、西三箇国のおひだより道俗・男女、群集をなして、この吉崎の山中に参詣せらるる面面の心中のとはり、いかにと心もよなく候ふ。

そのゆゑは、まづ当流のおもむきは、このたび極楽に往生すべきことわりは、他力の信心をえたるがゆゑなり。しかれども、この一流のうちにおいて、しかしかとその信心のすがたをもえたる人これなし。かくのごとくのやからは、いかでか報土の往生をばたやすくとぐべきや。一大事といふはこれなり。幸ひに五里・十里の遠路をしのみ、この雪のうち参詣のころざしは、いかやうにころえられたる心中をや。千万心もとなき次第なり。

所詮以前は、いかやうの心中にてありといふとも、これよりのちは心中にころえおかるべき次第をくはしく申すべし。よくよく耳をそばだてて聴聞あるべし。そのゆゑは、他力の信心といふことをしかと心中にたくはへられ候ひて、そのうへには、仏恩報謝のためには、行住坐臥に念仏を申さるべきばかりなり。このころえにてあるならば、このたびの往生は一定なり。このうれしさのあまりには師匠坊主の在所へもあゆみをはこび、ころざしをもいたすべきものなり。

これすなはち当流の義をよくころえたる信心の人とは申すべきものなり。あなかしこ、あなかしこ。文明五年二月八日

(2面に続く)

「ご文章のお話し」(つぎ)

◎語句

当年…文明五年(一四七三年)蓮如上上人五十九歳。加州能登越中…加州能登は石川県、越中は富山県。道俗…道は僧侶、俗は在家の人をいう。群集…人々が群がり集まること。

吉崎…現在の福井県金津町吉崎。文明三年(一四七二)蓮如上人が北陸教化の根本道場として吉崎御坊を建立された地。

心もとなく…たよりなく。気がかりで。往生…阿弥陀仏の浄土に往生されることをいう。他力…阿弥陀仏の本願力。阿弥陀仏が衆生を救済するはたらき。

しかしかと…はつきりと。しっかりと。報土…因位の菩薩の願行に報い現れた浄土。一大事…迷いを転じさとりを開くこと。千万…程度の基だしいこと。

聴聞…聞き信すること。阿弥陀如来の本願のいわれを聞きわけて疑つ心のないこと。行住坐臥…行は歩くこと、住はとどまること、坐はすわること、臥は寝ること。四威儀ともいう。また、いつも、つねにということ意味にも用いる。

念仏…仏を念ずること。真如を念ずる実相の念仏、仏のすがたを心におもひ観る観想の念仏、仏像を観する観像の念仏、仏の名号をとこなる称名念仏などがあり聖道門では実相念仏を最勝とし、称名念仏を最劣とみる。しかし浄土門では、称名は如来の本願に往生行として選びとられた本願の行であって最勝の行であるとみなされている。

一定なり…確定している。師匠坊主…師にあたる僧侶。

◎現代語訳・大意

このところ、加賀・能登・越中などの国から、僧侶も在家の人も、男も女も、たくさんの方がこの吉崎に参詣されますが、その人たちがどういうお気持ちなのかと気がかりなことです。

というのは、浄土真宗のみ教えでは、このたび浄土に往生することが出来るのは、他力の信心を得ることによるからです。しかし信心をたしかに得た人は見あたりません。そうしたこと、どうして浄土に往生することができましようか。五里十里という遠い道をなんとか踏み越えて、この雪の中を参詣されたのは、どういうお気持ちなのだろうか、はなはだ気がかりなことです。

それでこれからどうように心得なければならぬかという、他力の信心のいわれをしっかりと心にいただき、そのうえで仏恩報謝(ぶつとんほうしや)のためにいつも念仏すべきなのです。このように心得たならば浄土往生は定まるのです。その喜びからであれば、師とされる僧侶の寺へ出向いて施しをなさるのもよいでしょう。このような人を浄土真宗のみ教えをよく心得た信心の人というのです。

ヒダカくん 雪の中を五里も十里(20km〜40km)もの距離を歩いてくる人の情熱ってすごいものだね。平地を人間は時速4kmで歩くので、5時間から10時間かかることになるよ。雪の上をそれも平地じゃないところを歩くんだから、この南国にいる私たちには想像もつかない労力がかかるもんだよ。

ひかりちゃん この労をいとわれないものは何なんでしょうね。

ヒダカ 今まで既成の仏教に見捨てられていた人が阿弥陀さまによって救われることを初めて知ったよ。よろこびからだよ。よろこぶ身には労をいとわれないものだよ。今は利便性を求めるけれど、「その気になれば」利便性を言う前に、労を惜しまずがんばれるものだよ。

ひかり 子供が風邪を引いたとき、病院で何時間でも待てるのと同じかな。

ヒダカ 自ら進んでする事に摺得の考えはないし

自身の一大事は、何事もおいてもするものさ。本気になったんだね。
ひかり 『歎異抄』にも「おのおの十余ヶ国のさかいをこえて、身命をかへりみずして、たづね来たらしめたまふ」とあり、信心の一大事について、関東から京都の親鸞聖人のところまで門徒の人は来ていますよね。
ヒダカ そうだね、自分らでわからなくなったので、親鸞聖人のところまで訪ねてきているよね。当時でたぶん1ヶ月はかかるようだったんだ。その距離と時間とをいとわずに門徒の人は来ていますよ。時間と労力と費用を超えるものがその人たちにあったんでしよう。

感染予防の基本

◎体調管理 体温を測定 体調を確認	◎手洗い・消毒 丁寧な手洗い 共有物も消毒	◎咳エチケット 症状がなくても マスクを着用
◎席配置の工夫 手を伸ばしても 届かない程度に	◎適度な換気 こまめに 空気を入れ換え	◎密接を避ける 会話のときは 正面に立たない

いま私にできること
私のいのちを大切にすること
他の人のいのちを大切にすること

浄土真宗本願寺派(西本願寺)

法話 法事と赤飯

先日、ちょうど秋のお彼岸に、ご門徒の年忌法要のご縁に会わせていただきました。コロナ禍の私もお参りのご親戚の方々もマスク着用でのお勤めになりました。法要後はソーシャルディスタンスを保ち、お茶をいただきますながら、法縁を十分に喜ばせていただきました。帰り際に、お斎代わりにと、和菓子屋さんの折詰めを頂戴しました。手渡された時の感触で想像はしていましたが、庫裡に戻って折詰めを開けますと、中には、おいしそうな赤飯がたっぷり入っていました。

私には、全く違和感はないのですが、皆さんは、「法事に赤飯」どう思われますか。仏事に赤飯は何かがあるものか、祝い事でもないのに赤飯はおかしいとか、そんなふうに思われる方がいらっしゃるかもしれません。たしかに明治のころから「赤はめでたい色」という考え方が強くなり、法事での赤飯は少なくなるといわれます。ですが日本には、古代の人々が食べていた赤米を思い出し、先祖への感謝のために、何か行事があったときは赤米に似せた赤飯を食べるといふ風習が残っています。

浄土真宗のみ教えでは、亡き人は阿彌陀さまのお救いにより、すでに浄土に生まれ、仏になっておられます。真宗門徒にとって法事とは、追善のための行事ではなく、お参りされた方一人一人が仏法を聞くご縁なのです。そして、阿彌陀さまのお救いによる「往生浄度」は、永遠のいのちを持った存在として蘇る、浄土に生き生まれることです。往生されたご命日をご縁に、仏法に遇い、阿彌陀さまの恩徳に報謝する思いでお勤めする年忌法要は、お誕生日をお祝いするおめでたい法縁といえます。

私たちにできること —法事をおつとめするために—

◎おつとめ中は

できるだけマスクを着用します。マスクをはずしておつとめする場合は、十分な距離を確保しましょう。

◎聴聞のときは

法話を聞くときに、対面になる可能性があります。マスクを着用しましょう。

◎お斎は

食べ物は取り分けるものは避けて、個々に用意します。コップや食器等の共有は避けます。

- ◎手洗い・消毒・咳エチケットなど、基本的な感染対策をお願いします。
- ◎座る間隔を空け、こまめな換気をしましょう。
- ◎暑いときは無理せず、「水分補給」するなど、熱中症にも気をつけましょう。
- ◎発熱がある場合は、お参りを控えましょう。

先日の年忌法要で偲ばせていただいた方が生前おっしゃった「年忌いうたら、親戚みんな集まるの用意をして、お祭りみたいだった」という言葉を思い出しました。先日の法要は、コロナ禍の中ではありましたが、お参りされた皆さんが喜ばれた心のこもった法要となりました。じつは赤飯は、偲ばせていただいた方の好物でもございました。有りがたく、温かい気持ちで頂戴いたしました。

(亀井)



食事のことば

(食前のことば)

〇多くのいのちと、みなさまのおかげにより、このごちそうをめぐまれました。
(同音) 深くご恩を言ひ、
ありがたくいただきます。

【解説】

私たちは、食べ物をいただくことで、毎日を過ごしています。

この食事には多くのいのちをいただいています。またこの食事は私の口に届くまでには、多くの方のご苦勞もありました。

阿彌陀さまは、わたしたちが、多くのいのちと、みなさまのおかげによって、初めて生きていることができているのだと、明らかにしてくださいました。このご恩を思い、お食事を大切にいただきますように。

「ご家庭で食事のことばを みんなで申しませよう」

(食後のことば)

〇尊いおめぐみをおいしくいただき、
ますます御恩報謝につとめます。
(同音) おかげで、ごちそうさまでした。

【解説】

お食事をいただいたわたしたちは、尊いおめぐみをおいしくいただきました。多くのいのちと食事を留意してくださった方々のご苦勞を思い、そのおかげでいのちをいただいています。

いまここにあるわたしを、必ず救うと願い、支えてくださっているのが阿彌陀さまです。このご恩を思い、阿彌陀さまの願いに応えようと、精一杯に生きていきたいと思います。

「門徒一同で護る寺院」

日高町方杭 莊嚴寺

近年、地方では過疎が進み、住職不在の寺院も増えております。そのような状況のなか、永年に渡り門徒一同が「お念仏の声を絶やさない一念」で護寺に取り組んでいるお寺があります。

方杭は温泉館みちしおの湯がある在所、海岸地区の十軒程の小さな集落で、お寺があるとは思えないほどの所ではありませんが、そこに浄土真宗本願寺派の莊嚴寺(しょうごんじ) (鈴木悟隆代務住職)があります。

門徒百数は少ないですが毎月十五日、親鸞聖人の月命日に当たる前日に本堂内の掃除や、寺周辺の清掃、莊嚴を行っています。



「お念仏の声を絶やさない一念」 過疎寺院訪問



永年の習慣で、朝8時に各自それぞれが本堂に集まってくるそうです。寺院によっては、門徒であっても「内陣に入るのは遠慮願います」などと言われていた所もあるようですが、当寺院では内陣にも入り掃除や莊嚴をみんなで行っています。

作業が終わると、全員そろって外陣より、ご本尊に向かつて両手を合わせて「なまんだぶつ」とお念仏を申して奉仕作業は終わりました。

住職がいなくとも自らが阿弥陀さまへの報恩感謝の念で、先に生まれたものは後を導きながら、少ない門徒で寺院を護っておられます。

門徒心得

「法名の意味といただき方」

法名とは、仏法を依り所に生きようとする人に与えられる名前です。帰敬式(ききょうしき)を受けるときによってご門主から授けられます。いわば念仏者としての名のりであり仏教徒の証となる名前です。

具体的には「釋○○」と始めに「釋」の字がきて、次の「○○」の二文字が個々の名前となります。

また、法名と似たものに、戒名があります。戒名は自力修行で悟りをめざす人がいただく名前なのですが、定められた厳しい戒律を守り、精進努力して仏道を歩むことを誓って、はじめて与えられる名前です。法名が仏さまのはたらき(他力)に自らをゆだねて生きていく人に与えられますから、法名と戒名は性質が違う別の意味のものです。

法名をいただくというのは、私たちにとって南無阿弥陀仏をよりどころに生きる第一歩と考えると、考えればいかに思えます。私たちが阿弥陀さまの教えをいただいて阿弥陀さまをよりどころに生きていく決心を表しているのがこの法名でございます。

どうかこの教えに従って生きていこうと思われるかたは、可能であるなら本願寺にお参りされ、帰敬式を受式頂きたいとおもいます。

(鈴木章彦)



マスク姿の学生に帰敬式
大谷光洋門主(産経ニュースより)

相愛高校(大阪市)の3年生ら約百人が新型コロナウイルスの感染拡大を考慮してマスクを着用しての帰敬式。門主さまは高校生らに「仏教の教えを思い出して自分自身の生き方を振り返ってこれからの人生を歩んでください」と語りかけられた。

“煩惱”を 差別の言い訳にする 愚かさよ

「私たちのちかい」を味わう

平成28年、専如門主さまは伝灯奉告法要のご親教で「念仏者の生き方」と題してお示しになりました。さらに平成30年「全国門徒総追悼法要・秋の法要」においてより広く、「念仏者の生き方」のころをお伝えするため、「私たちのちかい」を四カ条の言葉にまとめてお示し下さいました。今回はあらためて「私たちのちかい」を味わいたいと思います。

自分の殻に閉じこもることなく・・・
私たちは、いつも自分の考えが正しく、自分さえ良ければと思って生きているのかも知れません。一時期、マスクや消毒液の買い占めがあったことでもおわかりでしょう。

自分の殻は硬くてちよつとやそつとで割れるような殻ではありませんが、阿弥陀さまの願いをお聞かせ続けていると、かたくなな私の殻ごと包み込んで下さるお念仏のみ教えから気づかされるのです。

南無阿弥陀仏の名号は、牡蠣の殻に例えれば、レンジで数十秒のチンでいとも簡単に開けてしまいます。智慧の光明と慈悲の熱によって殻が開くのでしょうか。開いたという自覚は私には起こらないかも知れませんが、自ずから穏やかな顔とやさしい言葉で誰にでも接することができるのでしょうか。(和願露音) むさぼり、いかり、おろかさ、に流されず・・・

煩惱の代表とも言える貪瞋痴(ごんじんち)の三毒は、常日頃から大変欲深く、時には自分の感情を抑えきれなかつたり、自分勝手なありようで生きる私の姿そのものです。貪とは必要以上に求める心、瞋とは怒り、憎しみやねたみの心、痴とはおろかさ、愚痴、無知のことです。

お念仏申す身となると、その自分の姿が鏡のように映し出され、煩惱具足の凡夫として

生きている自分自身に目覚めてゆけるのです。

自分の愚かさが映し出され、お粗末な私の姿に気づき、そのような私をこそ救いの目当てと名乗りを上げられた阿弥陀さまの願いを聞かせていただくとき、すまない・ありがたい・もったいないと(少欲知足)身も心も柔らかくなり(身意柔軟)心安らかに生きる私に変わってゆきます。

地元では、新型コロナウイルスで感染された方を犯人捜しのように噂する輩がいます。まるで犯罪者のようにその家族まで誹謗中傷し、あたかも自分は何でも知っているかのような優越感に浸る姿はなんとも浅ましい限りでしょう。SNSなどネットでの誹謗中傷が原因の事件も多発しています。自身も気づかぬうちに他人を見下したり、自己中心に振る舞っていることがあるのかもしれない。

阿弥陀さまは、私がつらいときにつらいね、悲しいときに悲しいね、といつでもどこでも私の人生を共に寄り添って下さっています。常に相手を思いやり、いたわることの大切さを思い知らされます。相手を思いやり、社会や困っている人の為に何かをすることは偽善者でもなんでもありません。できない事までする必要はありませんが、無理せずできる奉仕が行え、喜びや悲しみを分かち合い、寄り添える人生は尊いものです。(共苦・共感)

眼施(げんせ) 和顔悦色施(わげんえっしきせ)
言辞施(ごんじせ) 身施(しんせ) 心施(しんせ)
床座施(しょうざせ) 房舎施(ぼうしやせ) という誰にでも実践できる「無財の七施」(むざいのしちせ)を日頃から心がけたいものです。
生かされていることに気づき・・・
日本の食品ロス量は年間600万トンを超え、毎日、大型トラック(10トン車)約1700台分の食品を廃棄しているといわれています。大切な食べものを無駄にしているではありませんか。今一度、考えてみる必要がありそうです。

宗門では、ご家庭で「食事のことは」の唱和を推奨しています。多くのいのちのおかげで私たちは今を生きているのです。食材が食卓にのぼるまでのご恩を家族一同で深く喜びたいものです。

食後には、「おかげでごちそうさまでした」と申します。多くのいのちをおかげさまでいただいた私にのちとならせていただくのです。

念仏者として、おかげさまと生かされ、ありがとうと生きる人生であったと気づくとき、毎日をかけがえのない一日として一杯生きてゆけるのでしょうか。

親鸞聖人がご和讃(恩徳讃)にお示しの通り、身を粉にし骨を砕くご恩報謝の日々のなかで、仏さまの願いにならう人生を送ることのできる私に変わってゆくのです。(楠原)

私たちのちかい

- ① 自分だけの殻に閉じこもることなく、穏やかな顔と優しい言葉を大切にします。微笑み語りかける仏さまのように
- ② むさぼり、いかり、おろかさ、に流されずしなやかな心と振る舞いを心がけます。心安らかな仏さまのように
- ③ 自分だけを大事にすることなく、人と喜びや悲しみを分かち合います。慈悲に満ちみちた仏さまのように
- ④ 生かされていることに気づき、日々、精一杯つとめます。人びとの救いに尽くす仏さまのように

シリーズ

「過疎問題を考える」

妙願寺 楠原晃紹

新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、各地の寺院でオンラインでの法要や行事が行われています。東京の築地本願寺などがいち早く各種法要をユーチューブでライブ配信しましたね。私も時折築地本願寺のおあさじのお勤めを視聴していますが、法要に参拝したという気持ちには全く起こらないのです。定位置で固定された画面で見る本堂では、お賽銭を入れる音、参拝者の雑談や足音、鐘の音など視覚や聴覚に限界もあり、当然ながらお香の香りなどの嗅覚は全く感じられません。

つまりオンライン法要に参拝したとは言えず、ただ視聴していただけです。実際の法要と同じように「ありがたい」と感じられるかといえ、全くそのようには思えませんでした。

葬儀にもオンラインの導入が進んでいます。式場にかメラとパソコンを置き、インターネット経由でライブ配信。香典や返礼品をクレジット決済できるサービスを考えたと葬儀業者もあるそうです。

都道府県を越えた移動の自粛が求められた際や感染すると重症化するリスクが高いとされる高齢者にとっては「ありがたい」取り組みなのかもしれないですが、オンラインでどれだけ満足できたのか、今の時期だから代替手段としてやむを得ないのかなどとじっくりと検証すること、今後のあり方が大きく変わると思います。

私自身は過疎化が進む地方寺院であっても安易に他の法要と同様の感覚でオンライン化を進めることには、きわめて慎重でありたいと思っています。

コロナ禍での「平和を希う念仏者の集い」 鷺森別院で厳修(7/9)

遠く離れた故郷にわざわざ帰省し、お仏壇をはじめ、お墓やお寺に参拝することの大切さがそこにはあると思います。ソーシャルディスタンスという言葉も今では当たり前で使用されていますが三密を意識して他人との距離を少しとることだけで十分なのではないでしょうか。必要以上にこれまでの人間関係や親戚付き合いなどの距離を広げてはなりません。

映像では得ることのできないふれあいや感性をこれからも寺院に求めたいと思います。



鷺森別院で行われた「平和を希う念仏者の集い」は、今回新型コロナウイルス感染拡大予防のため一組あたり3名以内と人数制限がなされました。当日は執行部(組長・副組長)が代表して参拝しました。集いは法要と布教のみで和歌山組の島和夫師が県下の空襲のデータを元にお取り次ぎされました。

Q. 法名とはどのような名前でしょうか？

次の①～③の中から一つ選んで番号を書いてください。

- ①死んでからつけてもらう名前
- ②仏教徒として生きぬくための名前
- ③死んだあとのためにもらっておくもの

111号の正解は「③大阪」でした。

〔解説〕本願寺の本山が石山(現在の大阪)の地にあったのは天文2年(1533)から天正8年(1580)までで、織田信長が生きた時代とほぼ重なっています。また、本願寺が退去した跡地に豊臣秀吉が建てたのが大阪城です。

正解者は次の方々です。

由良町	岐山雄一様	由良町	中口小夜美様
由良町	磯崎藤子様	由良町	磯田公子様
由良町	浜出和子様	由良町	浜上弘様
由良町	井口きよみ様	由良町	平林道子様
日高町	湯川千代子様	御坊市	塩田廣一様



ホームページ、またはハガキに住所、氏名、年齢、電話番号、所属寺、紙面についてのご感想ご意見等を明記の上、下記までお送り下さい。

〒649-1113
和歌山県日高郡由良町阿戸
244番地
教専寺内 日高組事務所 宛

☆正解者の中から抽選で10名の方に『粗品』を進呈します。

締切 2021年1月20日(必着)
発表は次号です

常例布教が再開

本願寺

2015年1月以来の二度目の本山布教でした。前回とは違い今回は、コロナ禍(コロナか)の中での法話でした。本山常例布教は数か月の中止のあと9月に再開されました。写真のようにアクリル板が用意されて、三密をさけて椅子席もかなり減らしていました。御影堂でのお晨朝(おあさじ)もアクリル板越しでした。

9月から法座が始まることは、ホームページや本願寺新報で事前に知らされてきました。多くの有縁の方々にお聴聞に来ていただき、ありがたいことでした。

法話は、お晨朝と昼座と夜座です。全部で9座あります。しかし、コロナ禍ですので、時間は短くなりました。

以下は、9月5日の常例布教お昼の座より、お話しは「人生そのものの問い」です。



普段は参拝者をはじめ観光客や修学旅行生で賑わう境内や堂内も人影はほとんど見られませんでした。(9/4撮影)

北枕で涅槃にはいるお釈迦様が描かれた「涅槃図」、北枕は決して忌み嫌う寝姿ではなく頭を北、顔は西向き、これはインドで最も高貴な寝姿と言われています。

「アジャセのために涅槃に入らず」とお釈迦様に大きな決意をさせたアジャセ王。「親殺しの悪人」を親鸞聖人はアジャセ王の「悪」の部分ではなく、その背景にある深い「苦しみ」に注目しました。「救われ難き身である」とアジャセ王が認知した心に、仏となる種、要素を説いたのがお釈迦様であります。

「アジャセのために涅槃に入らず」

罪深きこの一人の男を、救わずして死ぬに死ねないというお釈迦様の大きな決意でありました。仏となれる要素を、まったくそなえていない悪人の私はどうすれば救われるか？ それは、仏様側が、その条件、要素、仏となる種をそろえてくださり、お浄土まいりができる私に仕立ててくださる南無阿弥陀仏。仏様からの他力回向です。

お釈迦様が涅槃に入るその時の絵図には、さまざまな人間模様が描かれています。絵には描かれていない人物にも、様々な思いや背景がありました。

人物だけではなく、植物も悲しみ、沙羅双樹は悲しみから真っ白に変化し、動物もみな悲しんでいます。

では、涅槃図に姿のないアジャセ王とはい

えは、救いへと導いたお釈迦様へ金品財宝で施しをささげようと、国民を動かしていました。しかし、お釈迦様がとうとう涅槃に入られたと知り、気絶をしまし、お釈迦様の元へ駆けつけることすら出来ませんでした。

大切な人の死に直面すること。

悲しみや苦しむといった言葉だけでは決して表現できません。

そのとき、私は何ができるのか？

死者のみならず、直面する側も大きなターニングポイントに立たされます。

そのとき、私は何ができるのか？

そのとき、私は何をしたいのか？

そのとき、私は何を伝えることができるか？

人間は、冷静さを失うとどんなでもないことをしでかしてしまう。弱くて脆い危険な生き物です。お釈迦様は涅槃のお姿を通じて、様々なメッセージ、人生そのものの問いを、私達に投げかけてくださっているのです。

(永原)



総会所(聞法会館)での常例布教、本山で4日間お取り次ぎさせていただきました

コロナで地元住民向け

宿泊クーポン販売

由良町

ステイYURAKクーポン

由良町は10月1日から、町内の旅館や民宿で利用できるプレミアム食事付宿泊券「ステイYURAKクーポン」の販売を始めた。対象は町内在住・在勤者で、町は「地元の旅館の良さや料理のおいしさを知ってもらい町外の人に発信してほしい」と話している。

新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用した事業。

営業自粛などで大きな影響を受けている町内宿泊施設の利用促進を図るほか、地元の人に地域の魅力を再認識・再発見してもらうことが狙い。

クーポンは千円券12枚綴りが1セットでプレミアム率は50%。1万2千円の食事付宿泊券が半額の6千円で購入できる。発行部数は1000セットで、購入は1人2セットまで。町内の4施設で使用できる。購入時に免許証や社員証の提出が必要で、販売場所は役場住民福祉課。販売期間は来年1月29日まで、有効期限は来年2月28日まで。

問い合わせは住民福祉課内の地域宿泊応援プロジェクトチームまで。(日高新聞ONLINEより)

入館料を割り引き

温泉館みちしおの湯

日高町

町営温泉館「海の里」みちしおの湯の入館者増へ向け、日高町は9月1日から来年3月31日まで、当日券利用の客に対して割引する。

当日券利用の大人や小人が対象、町外70歳以上、身体障害者と介添人を300円値引き、町内60歳以上は半額の150円に。ただし、回数券利用者は割引対象外。新聞掲載や温泉館内へ掲示、テレビ和歌山のCMにテロップを入れるなど事前に告知して呼びかける。

美しいリアス式海岸の方杭に、露天風呂やうたせ湯、ゆったりとしたスペースのコミュニケーションルームなどが完備した温泉館にぜひお越しを。

(日高新聞ONLINEより)

日高組通信

☆行事報告

上半期の全ての日高組主催の行事は中止いたしました。

日高組コロナウイルス感染症拡大のための予防の指針を策定しました。今後の法座・研修会などには各自で対応をお願いします。

- 1 マスク、フェース・シールドを着用する。
 - 2 手指消毒液を用意する。
 - 3 換気をする。
 - 4 密集・密接・密閉をさける。
 - 5 原則として畳一畳に1人の席とする。
 - 6 日高組の各教化団体の活動は、事前に各部長から組長に日程等を報告する。
 - 7 この指針に則って、各寺院の法座にも活用してください。
 - 8 行事等の直前に中止をもちえます。
 - 9 判断は、執行部が致します。
- 会所の規模によっては、人数制限を設けることがあります。

お参りされる方へのお願い

- 1 本日37.5度以上の発熱及び7日以内37.5度以上の発熱のあった方。
- 2 のどの痛みのある方。
- 3 咳・痰などの風邪の症状のある方。
- 4 味覚・臭覚の異常のある方。
- 5 海外からの帰国14日以内の方。
- 6 コロナウイルス陽性者(うたがいのある方)に14日以内の接触のある方。

以上の方は、参拝をご遠慮ください。

☆行事計画

状況によっては急な中止もありえます。

◎真宗法座

12月13日(日)午後一時半から由良町阿戸教専寺にて開催予定です。

講師は滋賀教区漢見寛恵師です。

なお、今回の法座は人数制限を行いますので「れんげん受講者」にはご案内いたします。

各寺院より2名程度のご出席をお願いいたします。

◎第2回組内会

12月19日(土)日高町志賀即生寺にて第2回組内会を開催します。

読者の声

※毎回楽しく読んでいます。

※「ひかり」をいつも楽しみに読ませてもらっています。教えられる事多くあります。

次号も楽しみです。早くコロナも終息して平安な日々を送れる事を願っています。合掌

※特別な夏を迎え、子供も大人も大変な日々を過ごしています。生きていくことは、不安と共に生きるのですね。コロナ終息祈る日々

※「過疎問題を考える」を拝読し、新型コロナウイルスのもたらす影響の大きさをひしひしと感じました。今後コロナが終息しても、従前のようなお寺との関係が長く継続出来ればいいなと思います。

ひかり編集委員会(広報部)では読者の皆さんからの投稿を募集しています。「法悦クイズ」に是非チャレンジしましょう。同時にご意見ご感想を添えていただければ幸いです。